

自分なりの普及活動

大墨 礼子

(兵頭 礼子)

サレジオ工業高等専門学校

現在の勤務先に移ってから丸2年が経ちました。あつという間の2年間で、特にこの1年は、担任という立場で16歳、17歳の若者を相手に過ごしているうちに気が付けば年度の終わりを迎えてしまいました。高専という学校の特徴か、将来に対して明確な目標やイメージがあり、またその目標に向かって努力を惜しまない学生もいます。また反対に、なんとなく興味があって入学したものの、そんなに大きな目標があるわけではなく、なんとなく過ごしている学生もいます。私が彼らの年齢の時を思い出してみると、特にまだしっかりとした目標というものはなく、どちらかというと後者のほうであったかもしれません。どちらの学生にも、この5年間で、見たもの、聞いたもの、学んだものが将来どこかでいつか役に立つ、役に立たなくても知識として蓄えていくということの重要性を感じてもらえればと思って日々過ごしています。

私が彼らの年齢の頃に、思いがけず数式処理システムを目撃しました。素直にすごいな—と思い、運よく大学で数式処理の研究室に置いていただけました。特に研究をというわけでもなく普通に就職をし、普通にソフトウェアエンジニアとして生活しているつもりでしたが、どういうわけか数年の間を置いてまた数式処理に触れることとなり、さまざまな形で数式処理に関わり続け、そして果てには高専で何かを教えている、という学生のころには想像もしなかった道を歩んでいます。本当に人生何が起こるかどこに行くのかわからないものだと感じています。思いがけずそのような道に来ましたので、何がどこで繋がるかわからない、知っておいて触ってみて損はないだろうと、「スウシキショリ」なるものに学生に触れてもらう機会を作っています。私が学生のころには、まだまだ大学でしかお目にかかれないうシステムであったような気がしますが、現在ではちょっとは使ってみたことがあったり、また産業界で使用されるなど、以前に比べれば知られるようになったとは思いますが、まだまだ皆が気楽に使ってみるという位置にはついていないように感じます。学生に使ってもらうことは、いつか私が無理やり数式処理を触らせた学生が、なにかものを作ったり、考えたりするときに使ってくれて、さらに人にまた紹介してくれると良いな、という思いもあつたりします。非常に微力ではありますが、私なりの方法で数式処理の普及や発展に少しでも貢献できればと考えています。